

2023  
特選  
文部科学  
大臣賞

## 第21回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

# 子供向け金融教育の課題について

東京都・白百合学園高等学校 1年 和田 桜子

私は小さい時から経済ニュースや日本経済新聞を家族と一緒に見ているうちにお金を運用したり、損をしないように考えることが好きになりました。日々の為替や株価の変動も長い期間でみると物価の上昇に繋が<sup>つな</sup>り、単純にお金を持って貯めておいたり、節約をしたりするだけではなく運用もしていかなないとお金の価値が下がってゆくことがあるということにびっくりしています。特に最近生活必需品である食品や、原油、光熱費の高騰により家計も圧迫され、自分たちのお金を守らなければいけないと強く思うようになりました。

最近の難しい経済状況を考えると、こんなに大切なことは自分だけでなく周りの子供たちみんなにも知ってほしいと感じるようになりました。一方、最近学校でも金融教育が開始されるニュースが多く出ており、「将来は安心なのではないか」と感じていました。

ところが、世の中はそんなに簡単ではないことを半年ほど前に思い知る出来事がありました。昨年、中学生の時に書いたお金の作文に関するご縁で金融関連企業の金融教育プログラムに参加するチャンスがありました。小学校高学年対象のプログラムで、輸出入や為替の変動の仕組みを考えるものでした。ゲームを交えたもので、成績により景品ももらえるため、生徒たちはとても意欲的に参加しており、プログラム終了時の生徒の反応も良く、とてもためになったのではないかと感じました。

しかし、プログラムの効果などについて関係者の方と会議をしたり、子供たちに話を聞いたり、アンケートをとらせていただいたところ課題点を感じました。それは次の通りです。①子供たちはゲームが楽しかったことだけは覚えているが、今日のプログラムの内容を家に持ち帰って親と金融について話をすることは少ない。②何とか子供が話を親としてくれたとしても、親のほうで話をしたことが多く、広がりがない。③参加者アンケートには主催者に気を遣っ

てよく理解したというような回答をしてくるが実は内容が難しかったという話を後で学校の先生にしている様子がある。④金融教育プログラムにはいろいろなものを用意しているが、いずれも同様の状況であり、この10年以上変わってきている様子がない。

長いことプログラムを開催している企業の方ですらかなり深い悩みを抱えている様子で、これら驚きの理由を子供目線で自分なりに考えてみました。①小学生ではまだ算数の理解度にばらつきがあり、輸出入や為替の話を十分に理解してもらうのはとても難しい（割合がわからない子供に利率の話をして無理など）。②日本ではお金の話がタブーとされ、進んでお金の話をしたがない文化や雰囲気がある。③単発での金融教育プログラムでは子供に理解させる範囲に限られる。様々な機関や企業のホームページには楽しそうでキラキラした金融教育プログラムがたくさん掲載されていて私は明るい将来を想像していたのですが、特に小学生向けの金融教育が世の中に浸透するには難しい問題を解決していかないといけないことを知りました。

金融広報中央委員会の公開情報<sup>1)</sup>を見ると小学生での金融教育の検討や導入が進みつつあるようではなかなか楽しく学習できそうです。そしておこづかい管理を知ることやお金の役割を知ることなどが主な目標であげられています<sup>2)</sup>。しかし、私が参加した小学校のプログラムでの厳しい状況を見ると小学生にこの目標を達成させるのはなかなか簡単ではなさそうな気がします。そこで私なりにどんなプログラムを用意してどんな方法で実施するのが効果がありそうかを考えてみました。①子供だけだと教育効果が低くなるため、特に低学年時は親もセットで参加するプログラムを用意、これによりお金の話はタブーではない雰囲気を作って親子の会話を活発にする。②継続で実施することが重要なので、毎月生徒がおこづかいの使用状況などを発表して議論する時間を設ける。③実際の本人のおこづかいを使うのが難しければ学校内の仮想の通貨を用い、毎月学校からおこづかいを出して子供に管理させ、貯めたり、購入したりする。④仮想の通貨で購入できる景品を用意し、子供が真剣にお金を管理できるモチベーションを持たせる。⑤小学校高学年の目標にある貯蓄と資産運用の理解のように算数の割合がわからないと難しい内容は算数の授業の中で扱い十分に理解できるようにする。⑥金融経済の仕組み、消費生活・金融トラブルなど学校の教

師で扱うのが難しい内容は企業の協力も活用する。⑦「よくわかった」「ためになった」のような回答をもらうためではなく本当に生徒が理解したかを測る質問を用意して生徒の理解度を追跡する、また必要に応じて時々プログラムの内容を見直す。

小学生に向けた金融教育は大人が思っているよりも深く難しい問題がたくさん存在しているように思えます。金融教育のスタートであり最も重要な小学生向けの教育については基礎的な内容を十分に時間をとって繰り返し、小学生の目線で繰り返し改良するように実施して行くのが効果的ではないでしょうか。

「家庭」「学校」「国の教育機関」「企業など金融のプロ」が単体で頑張っても効果は薄く、社会全体が一丸となり力を合わせていかないと問題は解決されないと考えます。「日本人の金融リテラシーの低さ」も気になります。日本の学校教育の中で金融教育の授業が極端に少ないことを改善することも必要ではないでしょうか。「お金」は誰でも使う最も身近で生きていくために大切なものなのに、なぜ他の科目のように授業がないのでしょうか。他の国では小学生で株式運用について授業のある国もあります。

一人一人の金融・経済知識が向上すれば、社会全体にも良い影響になると思います。義務教育で金融の授業を受ければ、どのような失業率・経済成長があるかを研究してみたいです。

「人生100年時代！」私は、日本において金融教育が子供たちを含めて十分に行き渡り、子供であっても皆が自分自身の将来的な目標や夢に向かってお金に関する部分でも計画的に行動でき、賢く生き、安心して暮らせる世の中を作るのに貢献したいと考えています。自分だけではなく、他者のために役立つ人になれるように。これからも日々私にできる活動を続けていきたいと思っています。

(注)

- 1) 知るぽると「小学校における金融教育の指導計画例」

URL <https://www.shiruporuto.jp/education/about/container/program/program05/program503.html>

閲覧日 2023年8月26日

- 2) 知るぽると 金融教育プログラム「学校における金融教育の年齢層別目標」【改訂版】

URL <https://www.shiruporuto.jp/education/about/container/program/mokuhyo/>

閲覧日 2023年8月27日